

第2回「Days Japan フォトジャーナリズム写真展」・開催報告

2010/6/19

文責:阿部太郎(経済学部)

日時:2010年6月14日(月)~18日(金)、9時30分~17時

場所:日比野学舎1Fホール

入場料:無料

主催:名古屋学院大学経済学部

1. 入場者

学生	教職員
116	4

学部

経済	外国語	商	その他
72	30	13	1

学年

1年	2年	3年	4年	不明
58	26	22	8	1

どのようにして知ったか?

CCS	口コミ	授業・ゼミ	先生	その他	不明
5	7	38	64	4	2

2. 感想

・アフガニスタンでは、まだ戦争が続いているので、今の写真の状態が現代にもあると思うと、悲惨だなと思った。しかも、犬まで処分されているのはとてもかわいそうだ。この写真をみて日本は幸せな国なんだと実感させられた。もっと世界に目をやることが大切なことだと思う。

・日本に生まれてよかった、それだけで幸せなんだと思いました。今この時間もどこかの国では内戦や戦争、テロがおきているのに、日本や先進国などは、この現状を知らない。今日見たような写真展で少しでも世界のこういった国々に目を向けることができると思いました。日本のような先進国は、自分の国の政治や国の成長ばかりに目がいていて、もっと自分の国よりも、今日一日生きることが難しいような国、子どもを産むのにも命がけ

の国、まだ小さい子どもがむりやり働かされている国、子どもが戦争に参加してしまっているような国をどうするのかを考えてほしい。

・目をつむりたくなるような写真も多く、でもこれが現実なんだなと思いました。「くさいものにはふた」という日本の考えがすごく恥じるべきことだと思いました。ちゃんと世界が目を向けて対処すべきだと感じました。

・色んな種類の写真が展示されていて、一気に見れない程でしたが、とくに目を引いたのは最近起こった色んな地域での紛争や、内乱など武力衝突の現場を写した写真です。ものすごくきれいに写っていて、まるでその戦場にいるかのような錯覚をおぼえてしまいます。グルジア紛争ではまさにグルジア軍の兵士が戦場を走っている場面などとても臨場感がありました。

・まだ氷山の一角だが世界中で起こっている問題について知ることができてよかったと思う。特に印象に残ったのはアメリカの収容所での問題です。今後このような展示会が催されたら参加したいと思う。

・世界のいたるところで戦争があったり、紛争といった争いで多くの人が犠牲になっていると悲しいなと思いました。刑務所の中では暴力が行われたり、囚人同士のなぐりあいといったことが行われているなんてびっくりだ。

・世界中の問題を写真で見て知ることができた。特に日本でも多くの犬や猫たちが年間で何万頭も殺処分されている事実は知っていたけれど、実際の写真は見たことがなかったので驚きました。

・世界各地で紛争や生活が困難な人たちの写真が多く、もし自分がこの地域で生活していたら生きていけないだろうなと思った。また写真を見て日本は平和であるとあらためて感じた。

・目を背けたくなる写真もたくさんあって、でも目を背けちゃいけないと言われるようにした。今から殺されるような犬が、目で「殺されることは分かっているけど、どうして？死にたくないよ」って言っているようでした。

・世界各地で起こっている悲惨な現状を見て、自分がどれだけ幸せなのかを改めて考えさせられた。同い年の子、またそれよりも若い子が、戦争に出されたり、戦争によって死んでいく人。圧倒的な武力の前で、なにも出来ずに殺されてしまう人たち、捕まえられて拷問を受ける人。信じられない事態を知り、大変さを知った。

・自分たちにとって遠い世界の話であろうと想像くらいはできる。そう思っていると胸がつまりました。「遠い世界の話」で終わらせるのは心がいたみます。正直うまく言葉にできませんが、自分でさえ今日の夜にこの思いも忘れてしまうのでしょうか。

・1, 2年ゼミと平和学の授業で使わせていただきました。学生なりに感じるものがあり、有益な機会を与えていただき感謝しています。写真によっては地図（例えばシエラレオネとはどこか）や用語（「コンゴ紛争と難民」の説明文にある CNDP とは何か）についての説明があれば学生の理解はより深まると感じました。

- ・ゴミ処理場のパイプの上を歩く少女の写真が印象的でした。また見てみたいです。
- ・写真を見て戦争の悲惨さが改めて分かった。一番、犬が炭酸ガスに閉じ込められてるのが本当かわいそうだった。
- ・どの写真もその時の風景がそのまま写されているような写真ばかりだった。特に戦争をしている写真は奇麗だった。
- ・殺処分される犬が年間 60 万匹もいるなんて……。自分の家の犬を大切に飼いたいと思った。
- ・日本では考えられないような環境の中で生活している人たちがいることが写真を通じて伝わってきました。お腹の中の赤ちゃんを産めないまま待っている状況は、とても考えられなくて、助けてあげられないのかと思いました。
- ・世界の現状を知った。戦争や災害によって被害を受けた人たちの姿はとても悲惨であった。命の大切さを学んだ。
- ・日本は幸せな国だと改めて感じました。世界には苦しい思いをしている人が沢山いて、世界はそういう人たちに目を向けていかなければならないと思いました。
- ・世界中でいろいろな悲しいことが起きてるけど、日本は平和に暮らしていけるので良かったなと思いました。
- ・様々な国の現状を目の当たりにし、自分たちが今どれだけ幸せなのかを実感した。そんな人たちのために自分ができることは、何かないのだろうか。世界中の人を幸せにするのは不可能だろうけど、苦しみの中でそれでも精一杯生きている人達を、少しでも笑顔にしてあげたいと思った。
- ・日本のように国内で内戦のないような豊かな国もあれば、一方では毎日内戦が起きて人が死んでいっているような国もあって同じ地球上にいても状況が大きく異なっていると感じました。
- ・普段から DAYS を読んでいたが、今回のように写真展として展示された写真の数々を見ると、何かいつもとは違うように見えた。もっと大々的に開催してほしい。ミニ写真展で点数は少ないようにも感じましたが、イラク、犬の処理など心に訴えかける写真には考えさせられました。貴重な展示だと思います。また、学生たちを連れてきたいと思いました。ありがとうございました。
- ・自分の知らないことを知らされた気がしました。最初に見た写真が、殺処分の待っている犬の写真ですごく悲しい気持ちになりました。
- ・写真はどれも驚きのあるもので戦争に関するものはもちろんのこと中国の環境問題に関する写真がすごく汚染の恐怖を感じさせた。
- ・このような機会がなければ目にするものがない写真ばかりで、やはり、自分の目で見てみると、地球全体の危機感のようなものを感じました。日本に住んでいれば、死の恐怖に脅かされることもなければ、飢餓に苦しむこともありません。しかし、世界の実態は、子どもたちが働き、飢えの苦しみ、死と常に隣り合わせだということが分かりました。最近、

やっと世界から目を向けられるようになり、その実態が知られるようになった国もありますが、そのほとんどは自分たちの知らないところで死んでいるという事実を改めて実感しました。

- ・衝撃的な写真ばかりでした。写真に載っている人々もだいたい黒人の人々が多く、南半球の国々は、医療も不十分だし、生活環境もひどいなあと感じた。

- ・戦争の悲惨さなどは知ってはいたが実際に写真などは見たことがなかった。実際にみると、思った以上に悲惨で世の中にはかわいそうな人がいるなと思った。

- ・日本はほんとに平和で裕福だと思った。戦争の悲惨さを実感できた。また、戦争によって被害を受けているのは「人間」だけでなくペットたちも処分されていてショックを受けた。

- ・世界では毎日様々なことが起こっていて自分が経験したことがないような悲惨なことが現実にあるということを知り、いかに自分の生活や環境が恵まれているかを知った。また恵まれない人々のために様々な募金活動や支援活動に参加してみたいと思った。

- ・色々な国の戦争や災害時の写真を見て、色々なことが伝わってきました。

- ・犬の写真がとても悲惨だった。飼うなら育てる義務を捨てないでほしいと思う。

- ・写真を通して世界の現状を見て、今、自分たちが日本に生まれてきて、毎日楽しく生きていることが幸せだと思った。それも衝撃的な写真ばかりで、心に突き刺さるような思いになった。

- ・こわかった。

- ・このような写真を見ると、まだ日本は平和だと思う一方で、保健所の写真は悲惨だった。

- ・インドのムンバイでのパイプラインの上を歩く少女を見て。ゴミが大量にありすぎて、歩くところもない為、パイプの上を歩く少女を見るととても心が痛みました。世の中にはゴミを食べて生きている子達がいると聞き、その時日本はとても裕福であるというのがあらためて実感しました。今後改善すべきことが沢山あると感じました。

- ・世界にはこまっている人がたくさんいると思いました。これに比べて自分はすごく恵まれていると感じました。少しでもボランティアなどこまっている人の為になるようなことをしていきたいと思います。

- ・悲しい気持ちになった。自分は日本に住んでいるから写真のような光景や場面には遭遇したことはないけど、世界には多く苦しんでいる人がいると思うと残念に思うし、自分は日本に生まれてよかったと思う。

- ・ニュースや新聞などで色々知ってはいたが、実際の写真などでは見たことがなかったの、衝撃を受けた。現場のリアルな感じが伝わり、見てよかったと思う。

- ・戦争などのひどさがよくわかってよかったです。口で聞くよりも写真で見た方が素人には理解しやすかったです。ほかの国では、いまだに戦争している国があるのに、それに比べて日本は平和だと思いました。

- ・世界のニュース、報道は一部は取り上げるが今回の写真展の様なモノはほとんど報道さ

れていないと思った。

- ・この程度の写真では戦争・紛争の恐怖は伝わらない。

- ・犬がかわいそうだった。ペットを捨てる気がしれない。日本は恵まれていると思う。紛争の風景を知ることができてよかった。

- ・一つ一つの写真に生命を感じました。見ながら何度も泣きそうになり、今置かれている自分の環境が信じられない気持でした。「人」ってどうして「人」を傷つけるのだろう？生きるものとしてこの問いが頭をぐるぐるかけ回りました。そして誰とも言いませんが、ふと誰かに言いたくなりました。「あなたは今、どんな空を見えていますか？」同じ広い空、平等に与えられた美しい自然の一つである空がこんなにも違う……。そのことを誰かと共感したくなる、悲しく、心痛む写真展でした。

- ・どの写真も印象的で、考えさせられるものがありました。

- ・すごい切なくなるような写真ばかりで心が痛くなりました。世界にもっと視野を向ける必要があると思います。国際文化協力学科としてこれから何かこのような人たちのために出来たらと思います。

- ・それも衝撃を受ける写真で、世の中の現状が見ることができました。

- ・世界の事情がよく解かった。

- ・衝撃的な写真が多かった。

- ・日本でよくある写真と全然違うのでインパクトがあった。

- ・世界のひさんな現状をまのあたりにして、悲しくなりました。

- ・今年は日比野学舎でしたので少し不便でしたが学生とともに見せていただきました。大変貴重な写真ばかりで、いつもながら感激です。学生たちも「知らなかった！」と少なからず驚いていました。いろいろ考えさせられたと思います。ありがとうございました。

- ・興味深く、考えさせられる写真ばかりだった。

- ・つらかったです。

- ・国際文化協力学科で勉強しているので、考えさせられる写真でした。

- ・ペット処分の写真が印象的でした。

- ・悲しいですね。

- ・もともと、こういったものには興味がありました。なので、写真を見れたことがとてもよかったです。世界にはとても苦しんでいる人たちがまだまだいることがよく分かりました。「よく」と言うと、ほんまに写真を撮ってきている人に悪い(?)んで、最低限、写真を見たことでそれなりの現状を理解しました。また機会があれば、この写真展をやっていたきたいです。見てたら泣けてきました。自分の幸せに気付かされました。

- ・普段見ることがない紛争の写真の間近で見れて様々なことを考えさせられました。

- ・もっとたくさん見たいです。

- ・良かったと思う。

- ・良かったです。ぼく自身世界状況を少しなりとも知ってますが、さらに見分を広めるこ

とができました。

- ・多くのことについて考えさせられました。ありがとうございました。
- ・自分の知らない世界や、自分の見たことのない事態が世界で起こっているという事実があることを改めて知らされ、自分がなにげなく暮らしていることは幸せなことだと思う反面、ショックを受けました。
- ・すごく考えさせられる写真ばかりでした。私の知らない世界が映し出されていて、こんな状況であることを知りました。
- ・いろいろ考えさせられました。
- ・私達が住んでいる裏側では、こんなにもつらいことが毎日起こっていることに気が付きショックでした。特に私は、南アジア・働かされる子どもたちで、自分より下の子ども達が働かされているのかに怒りを感じました。私だったらもっと改善したいと思いました。
- ・・。
- ・なかなか悲惨な写真が多いが特に気になったのが南アジア働かされる子ども達を見て日本に生まれてはほぼ直面することがないような状況だが世界の子どもの 7 人に 1 人は働かされているという現実を初めて知り、日本にうまれてよかったと本当に思った。
- ・シエラレオネでは、生産と同時に女性が死亡する率が世界で最も高いという。写真では、女性が涙を流し、とても不安そうな顔をしているのがとても印象的であった。世界では、安心して生産できない国があると思ひ少しとまどった。
- ・女性が出産時に死亡する確率が一番高く、お腹にいる亡くなっている子を取り出すのをまっている写真だが、前に二人の女性がなくなって不安な様子がとてもつたわってくる写真でした。写真でこれほど伝わってくるということは、とてもつらく、不安なんだと強く思いました。
- ・この写真を見てイラン人をアメリカ人が尋問している写真を見てこういうことが今、外国でおきているのだなと思うと残酷すぎるなと思った。昨日までじゃれてた犬が処分されるときの写真は悲しすぎるなと思った。犬の写真が一番印象に残った。
- ・私の知らない世界では、日本とはまるで違うことが起きていると思った。日本は平和で、なにも紛争などが無いのに、今、自分のために戦っている人もいる。病気と闘っている人もいる。薬がなくて死んでしまう人もいる。日本は本当に平和だと思った。施設に入れられてしまい、処分されてしまいそうな犬の写真が特に印象に残った。自分も犬を飼っているため、この手の話題などを耳にすると、悲しくなる。犬たちに罪はないのに殺されてしまうのは何かおかしい気がする。人間の勝手な都合で動物が殺されてしまうようなことはもうおきてほしくない。
- ・日本にはあまりない光景で凄惨な光景が大半だ。過激派は世界中にいるがああやって目の前で写真撮るのもすごい。ニュースでたまにそっち系の話をやっているけど実感がまったく無い。たまにこういう写真展などやっていると世界の実情が見えてくる。
- ・日本にいては分からないこと、ニュースだけでは知られないことファイnderより写し

だされるその世界には必ずしも幸せを撮ることができない。その苦しみとその悲しみを、その痛みと、そして写真から生まれるその写真家の憤りを伝えることができ、確かに自分にはそれが伝わった。

- ・前日までじゃれ合っていた子犬が殺処分されてしまうという写真が特に印象に残っています。かわいそうな目で何かを訴えかけている写真は何か見ているのがつらくなった。おりに入っているのがまたつらいと思った。

- ・処分されるペット達の写真を見た。おりに入れられたペットを見てとても嫌な思いをした。人間の私情でペットとされた犬なのに人間の都合によって処分されてしまうのはいけないことだと思う。

- ・体内で死んでしまった赤ちゃんをとり出してもらうのを 2 日も待っている黒人女性が泣きながら横たわっている写真が印象に残った。その人の周りでは赤ちゃんを産んで死んでいった知人を 2 人見ているらしくとても不安そうでかわいそうだった。

- ・子犬が処分される写真を見ました。今ではペットはどの家庭でもいるみたいです。しかし、この処分という結果がでるということは、確実に自ら飼うと決断した動物、いえもう家族とっていいでしょう。それを捨てているということです。人として、責任ある行動を取らなければならないと感じさせる写真でした。

- ・南アジアで働かされる 7 才の子どもの写真を見ましたが、自分は親の金で大学まで通わせてもらって、現在 20 才だがまだ学生なのに、この少女は 7 才ですすでに働かされていて、こきつかわれていると思うととても世界が不平等であると感じました。

- ・人間の予定だけで犬や猫のペットが捨てられて、保健所で殺されてしまうのはとても悲しいことだと思う。人間はペットを選ぶことができるのにペットは飼い主は選べないのでしっかりと最後まで飼うという意味がある人が責任をもたなければならないと思った。

- ・私は動物が処分されている写真を見てすごく悲しい気分になりました。動物が薬によって一気に殺されてその床に重なるようにいる写真でした。その動物たちがまだ生きていた時の呼吸のため部屋の中にまだ温かさを感じるという生と死がすごく隣り合っている写真だったので、せつかく生まれてきた生命がなんでこんなにはかなく終えられてしまうのだろうかという疑問が起きました。あと、四川省の地震のあと、夫と娘をさがす女性の写真を見て、自分の地域も地震がきて一人残ったらあの女性と同じように見つからなかったら一緒に死ぬつもりぐらいで必死に探します。だから写真の女性の気持ちがすごく伝わってきました。全体として自分は普通に命があって、命の不安もないことが当たり前だと思っていたけど、この写真展を見て当たり前ではない自分の生きている環境に幸せを感じました。なんで、世界は命を大事にできないのだろうか、みんなが全て生きられないのだろうかと思わせられました。

- ・初めに見たのがイヌの写真。人間の勝手な都合で愛されて、殺されているのは見ていてつらかった。ニュースとかで犬とかじゃなくてカメとかよく繁殖してしまったというのを見たことがあるけど、処分後の写真は、はじめてみたので、ニュースでやっていた動物も

ああなったと思うとかわいそう。全部見て一番うわって思ったのは、死んだ子どもをお腹の中に入れて泣いている女性。日本で生まれる前に死んでしまうのは、流産か、事故か病気がぐらいだと思う。だから、8回に1回って数は日本とシエラレオネでは真逆の意味になりそう。でも、逆に生まれてこれた子は、日本で出産されるよりすごい愛を親からもらえそうだとも思った。でもやっぱり8回に1回生まれるってのはかなしいなと思いました。

- ・犬の殺処分、飼い主がかわいいと言ってかった犬なのに、飼えなくなったといって捨てるのは考えられない。首輪もつけて殺処分させられるなんて。生きものに殺処分という言葉をつかっていいのだろうか？ひどくなっている状態が、もっとひどくなっていくんではないかと感じてしまう。たくさん目をそむけたくなる写真、でもそむけたらそこで終わってしまう。動物や人が死んだら「いぶつ」となってしまうのだろうか？ゴミの上で生活する、その子にとっては、ゴミじゃなくて、宝の山なんだろうな。親の中にも子どもがいるのに、つかまって、そこで子どもを産む。すごく大変な現状、10年の禁固刑だったら、その子も刑務所から出るのは、10才になったとき？刑務所で生まれて、10年間も暮らすなんて。自身も、大変だなとしか思っていなかったけど、夫と子を亡くしたらどれだけ悲しいことなんだと感じさせられた。

- ・まず思ったことが、自分の住んでいる環境と別世界だと思った。普通に生活していたら経験することはないような生活が当たり前みたいになっていて悲しくなった。命を軽く考えている気がした。自分はしっかり生きていこうと思った。

- ・動物の写真などとてもひどいものが多く、悲しく感じました。

- ・犬や豚の処分完了後の写真を見て苦しそうでかわいそうだった。でも興味をもった。

- ・さまざまな写真を見て、現実にもこのようなことが起こっていると思うと残酷だと思いました。とても悲しいです。

- ・色々な写真を見て、戦地や貧しい国の現状がリアルに伝わってきました。

- ・処分されるペット達。この写真が衝撃的でした。炭酸ガスで一気に処分される犬たちの姿がとても恐ろしかった。また写真なのでなまなましい。コロンビア十代のゲリラたち。こんな若く美しい女性も戦争に参加していると思うと信じられない。

- ・一つ一つの写真が印象的で言葉を失いました。日本とは風景も状況も違いすぎて怖かったです。写真がまだ2, 3年前のだと知り、いまでも続いているのだと思うと悲しくなりました。

- ・日本では考えられないことが毎日のおきてるのがおそろしくなりました。

- ・自分が抱える悩みなんてちっぽけでぜいたく過ぎると思いました。そういうことすら悩めない。生きるという事の不確かさがカンボジアにはある。しかも、望んでもいないのに。この写真展に触れただけでは全てを知ったとは思えません。そんなんで知ったという人間をどう信じればいいのか。つまり、何もできないのならば現状を知る。それが唯一の方法だと思う。何かをする気があるのならする。ハッキリいって自分がこういうことを書き連ねることは、自分とは関係がないと心のどこかで思っているからなのではと思っ

てしまって、今自己嫌悪になってしまいました。しかし、知らないのと知っているのでは違うと思います。やっぱり、教育、それから政治これを整えて、豊かにしていく。この考えがいつそう強まりました。自分の非力さにも気付かされました。めちゃくちゃな文ですいません。

- ・弱い立場の人々がぞんざいに扱われている写真の数々を見てとても心が痛んだ。世界の進んでいく方向をチェックするジャーナリストの重要さも知った。

- ・世界の各地の私の知らないところで人や生き物の命に関わるような悲惨な事件がたくさん起こっていて、しかもそれは経済的に貧しい国でおこっていることが多いと思いました。又、戦争が関係している写真も多く、米兵による虐待の写真もありました。私は自分がどれだけ幸せな生活を送っているのかがわかりました。

- ・よくテレビで「市民が被害をうけている」といわれているけど本当にそう思った。国のためと言いながら戦争にいつているが本心かどうかわからないし本当に戦争したいのかと思った。自分たちが生きているのはある意味奇跡なのでは。

- ・この写真展で一番印象に残った写真は、CNDP の兵士に足を撃たれ切断した男性。彼は徴兵に従わなかったため打たれたという写真です。コンゴという国で撮影された写真で、私は徴兵というのがない日本で生まれてよかったなと思いました。もし、撮影されていた彼だったら、私も同じようになっていただろうなと思いました。世界中から戦争がなくなればいいなと強く思いました。

- ・どれも印象が強く、いろんなことを考えさせられる写真だった。悲しいけど、キレイな写真と思う。

- ・処分されるペットの写真を見て、ものすごくひどいと思いました。

- ・写真がとてもリアルだったので戦場にきたみたいなきもちになりました。初めてこんな生々しい写真を見たので戦争のおそろしさが伝わってきました。日本は平和でよかったと思いました。

- ・全部の写真が本当に世界で起こっている事なら日本の年金問題なんて問題じゃないなあと思いました。

- ・写真が戦争や必死で生きようとしている姿が印象的でした。中には笑っている写真もあったけど、ライフルみたいなものをもっていた。写真を見ると平和でよかったなと思いました。

- ・日本はとても幸せな国なんだと実感した。日本は他の国と比べて平和なので、他人事のように考えてしまいますが、もっと世界の国の状況に目をむけなければいけないのかなと思った。また、人間が飼ってすてた犬も処分されたり、医療技術が整っていないので十分な医療が受けられなかったりしているので、日本ももっと貢献するべきだと思うし、私たちも考えなければいけないと思う。

- ・世界の悲しい出来事が集まって、まだ平和には遠いんだなーと思った。自分が今どれだけ幸せかを思い知った。

- ・気分が悪くなりました。グロテスクな展開が日常で行われていると初めて知りました。地元の人たちは必至に生きているのに、軍隊の人たちは気楽というか、そもそも銃をかまえて笑顔で写真に写らないでほしい。
- ・まず犬について飼い主の無責任さがわかった。各地の貧困の差ははっきりしている今いる日本がどれほど安全なのかがわかった。
- ・外国の貧しい人々の苦しさが写真を見てしみじみと伝わってきました。ごみをあさる写真をみるととてもかわいそうに思いました。
- ・今の外国の貧しい国の現実がよくわかる写真ばかりで特にごみ処理場を歩く少女の写真はなんともいえない気分になりました。
- ・ありえないと思った、日本じゃ考えられないことが沢山あった。ゴミの山など子どもをなくした母、家が燃えている写真など、世界にはこんな国がたくさんあると思った。自分は日本に生まれて、幸せだと思ったけど、世界を見てみると日本は裕福だと思った。マザーテレサは、日本が一番貧しい国だと言っていた意味がわかった。見て見ぬふりをする日本は許せない！！
- ・世界でひどいことがたくさんおこっているけどほとんどが人の手によるものだとって悲しいと思う。だが人間を助けることができるのも人間だけだと思った。
- ・とてもひどい写真がいっぱいあった。小さな子どもにまで銃をもたせて戦争に参加させるなんてとてもひどい。徴兵を断っただけで足をうたれるなんてとても悲しい現実ですよ。こういうようなことをなくしていきたいです。
- ・非常に悲惨な状況で非常にショックでした。犬の写真は、あんなことするなら自由にしてあげればいいと思いました。
- ・かわいそうな写真は見るのがつらかった。日本では見られないような光景で、かわいそうでした。
- ・すさまじい写真ばかりで話を聞いていた以上にゴミなどもたくさんあり、カンボジアの環境はとても悲惨だと思った。人もとてもやせていてカンボジアの国の状況が見て分かってかなしくなった。

3. 写真



